

伝えたい 由布のもの NO. 1



土に還る帽子

この地にあるたくさんさんの由布産のもの。

お米、野菜、竹細工、家…この地でとれた食べものは抜群の鮮度があり、この地で作られた暮らしの道具は作り手の想いも感じながら使うことができるかもしれません。ガイドブックにも載っていないような知る人ぞ知る由布産のものを集めて、知って、必要なときに暮らしの中に取り入れていくことで少しでも豊かな時間を過ごすことができるのではないのでしょうか。そして、それが由布の人やものを応援することにつながれば由布の中でさらにいい循環が生まれるかもしれません。

そこで、〈伝えたい由布のもの〉のインタビューをはじめました。初回紹介するのは、庄内町大龍で帽子づくりをされている神谷有香さんの〈土に還る帽子〉です。

神谷さんは愛知県出身で2020年1月に由布に移住。東京、熊本を経て由布の自然やお子さんの保育園が決め手となり由布に移り、アトリエを備えた住居で暮らししています。由布に暮らし始めてからまだわずかですが、暮らしに使う水は湧水を汲みに行き、お子さんとも各地の温泉を巡るなど、由布の自然のエネルギーに触れながら暮らしそのものを楽しんでいらつしやいます。

移住する前は帽子をつくり、三輪自転車にのせて自分の足で販売をしていた神谷さん。帽子の全てを天然素材でつくっています。コヤシ科の木の葉や幹の皮からつくられるバオヤ羊の毛をフェルト化したものを素材とし、



〈取材・文〉
岡田鹿乃子
Kanoko Okada

● 東京都出身。東京都で進学・就職を経て2020年8月に由布市の地域おこし協力隊に着任。移住定住担当として活動してきます。手仕事のある暮らしをめざして、最近畑を始めました！

● 問い合わせ

総合政策課

☎ 097-582-1158

形を固定する糊も一般的には化学溶剤が使用される中、神谷さんの帽子は天然の素材を使用しています。帽子の成形にはアンティークの木型を使い、柿渋などの天然染料で色をつけます。「地球を愛する私たちの帽子」がテーマで、環境に負荷がかからないようなものづくりを心がけています」とお話しされていました。

食べるものや洋服などこだわりある暮らしをされている神谷さんの手から生まれる帽子は、ユニークで人や環境に優しいものでした。由布の自然の中でつくられる帽子が多くの人のもとへと渡り由布の豊かな自然まで伝えてくれそうです。これから、オンラインショップの開設やアトリエでの帽子づくりの教室も計画しているそうです。お楽しみに。神谷さんありがとうございました！

〈伝えたい由布のもの〉

詳細は由布市地域おこし協力隊のFacebookでも紹介しています。ぜひご覧ください。



▲ 由布市地域おこし協力隊 Facebook



▲ ご自身が作った帽子を被る神谷さん。全国のクラフト市などで販売してきたそう。